

神賀山物語

山で生きていくためには山の神様に守って
もうわねばならない。
そのためにはちゃんとお祈りをしなければならない。
山のあちこらには神様がいる、しゃる。
事故で怪我のないよう、
道に迷わないよう、
四つ足にくい殺されないように、
山の神様はいつも守ってくれている。
山の神様を大事にしていかんと。山では生きて
いけん。

神賀山

物部川中流・永瀬ダムの下流。歌人吉井勇の
愛した猪野々の上にあら神賀山は五石山
と肩並べる華生の靈山。
神賀林道とよると大山祇神と安徳天皇を祭神とする
神賀大山祇神社が鎮座している。

宮地に「樺山のやう」より

物部川水系と
吉野川水系との
分水嶺の稜線

白骨林

ミツバツツシガ
美しい(5月上旬)

横道
滑石峠



奥神賀

重生郎と豊永郷の大堀、神賀の峯にある鳥帽子石(六尺四方の巨石)を御神体として神賀権現といつて祭り、明治元年に神賀明神、同三年に大山祇神社と改称して現在に至る。

神賀神社

神賀神社のあるのは猪野々小字森石。ここから北へ中津(中都)山がそびえ、北東に尾根を行くと奥神賀」という石表の小祠を設け、大山祇の神を祀つてあり、そこが本社と伝えられている。

毎年11月1日、氏子総出の祭りが行なわれ、太鼓を吹き先達、先頭に武者装束、天狗面、槍、刀、薙刀、鉄砲組に腰使い、碁盤振(子ども)、お輿(し)、神職とつき、その後鳥毛、熊毛、獅子(りゆう)、御幣持(みのり)が組まれ、最後は馬数頭といふ(おも)づれの行列、神社より1km東南(標高850m)にあら御旅所へ往復し、太鼓を打つ音が峯を越え、山麓にこぼれ、遠くへ伝わって行ったといふ。

神賀山

神